



ノートテイク体験講座



アイマスク体験講座

のみならず、障がいへの理解を深めてもらいます。

校内での啓発活動

学生や教職員を対象に、障がい学生への理解を深めるためにさまざまな講習会を企画・開催しています。

障がい学生学習支援チームの取り組み

障がい学生学習支援チームの業務

2012年5月、駿河台キャンパス・リバティタワー5階教務事務室内に「障がい学生学習支援チーム（以下、支援チーム）」を設置、身体に障がいのある学生の支援を開始しました。以来、支援した学生は約30名。同じ障がいであっても学生の困り感はそれぞれ異なります。授業を受けるにあたって一人ひとりの学生が何に困っているのかを丁寧に確認して、それに合わせた支援を行っています。

明治大学の教育

Education of
Meiji
University

相談・支援コーディネーター

学内のさまざまな部署との連携が必要になるため連絡や調整を行います。在学生への入学後の相談はもちろん、オープンキャンパスに参加する受験生への対応も行っています。

学生支援スタッフの養成・運用

本学の障がい学生支援は、基本的に学生によって行われます。ノートテイクやポイントテイク、教材のテキスト化作業など、ボランティアで行う学生を募集・養成し、必要な個所に配置します。事前に説明会や講習会を実施し、技術の指導

支援チームで行っているさまざまな支援

支援チームでは個々の相談者に対して、面談を通じて要望を聞き取っていきます。要望の全てを叶えることができない場合は、代替案を相談者と一緒に考えていきます。現在は次のような支援を行っています。

視覚障がい

- 授業で使用する資料の拡大コピーやテキストデータの提供
- 支援機器等の貸し出し

東京メトロ千代田線の新御茶ノ水駅からリバティタワーまで続く歩道に点字ブロックがあるのにお気づきですか？これは、以前全盲の学生が在籍していた際、区や地域の協力のもと、駅から大学までの通学路に点字ブロックを敷き、学生が安心して通うことができるようにしました。同時期にリバティタワー内にも入口からエスカレーターへの誘導点字ブロックを敷きました。さらに、タワー内の全ての教室のドアノブの上や、エレベーターやエスカレーターにも点字表示をつけま

PROFILE

障がい学生学習支援チーム

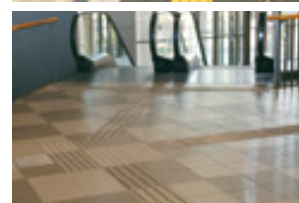
大学に在籍する身体機能に障がいがある学生に対して、兼務の専任職員2人、コーディネーター2人の計4人で学習支援活動のサポートを行っています。

支援の流れ

1. 問い合わせ・相談…支援を希望する学生は、所属する学部等事務室または障がい学生学習支援チームにお問い合わせください。
2. 学生本人、所属する学部等事務担当者、支援チーム職員で面談を行います。必要な支援について話し合い、支援内容を決定します。
3. 支援開始後も必要に応じて面談を行い、支援内容を見直し調整します。

問い合わせ・連絡先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学 駿河台キャンパス
リバティタワー5階 教務事務室内 障がい学生学習支援チーム（月～金 9:00～17:00）
電話：03-3296-4131 FAX：03-3296-4341 E-mail：sgg_sien@meiji.ac.jp



歩道や学内に設置された点字ブロック



全ての教室のドアノブに点字表示をつけています

した。これらは学生と話し合ってきた支援のひとつです。また、駿河台図書館には点字プリンターが設置されていて、学習サポートができる環境を整えています。

支援学生からのコメント (Q&A)

Q1: ノートテイクをやってみようと思ったきっかけは?

A: ボランティアをしてみたいという思いはありますが時間的な余裕がありませんでした。空きコマを利用してできるボランティアなので、私にもできると思ってエントリーしました。

A: 大高さんと同じ学科だったこともありノートテイクを通じて授業を受けている姿をよく見ていたので、「自分も助けになりたい」と思って参加しました。

Q2: テイクをやってみて難しいこと・良かったことなどはありますか?

A: 先生が話す内容を忠実にテイクすることに難しさを感じます。あくまでも私は「耳」の代わりなので、要約しないようにしています。先生が指示語を使う時も大変です。「さっきの内容は」と言った時、テイクでは文字がたくさん並んでいるので、どの部分かわかりません。そこで言葉を補ってわかりやすいようにしています。

Q3: テイクをした感想を教えてください。

A: 私自身の勉強にもつながるのでとてもよい経験です。少しでも多くの情報を正しく伝えられるように頑張ります。

A: 英語に自信があるので、今後は英語のノートテイクを担当してみたいです。そのためますます英語の勉強に励んでいきたいです。



授業でのノートテイク支援の様子

支援チームの役割

支援チームでは障がい学生の支援をする際、「学生との話し合い」を大切に行っています。その理由は二つあり、ひとつは「一人ひとりの困り感に合った支援をする」ためです。例えば同じ聴覚障がいの学生でも、その聞こえ方や程度には個人差があります。そのためその学生に必要な支援を引き出し、一緒に作り出していく必要があります。そして支援を実施しながら支援状況のモニタリングを行い、もし上手くいっていない場合は変更しながら、学生にとって学びやすい環境をつくる

聴覚障がい

● 授業内容を文字で伝えるノートテイク、パソコンテイクの養成と手配



車椅子用の机

肢体不自由
● 自分でノートをとることが困難な場合はノートテイク、ポイントテイクの手配
● 授業で使用する机や椅子などの配置
学生が授業で使用する教室に車椅子用の机の配置やその移動を行っています。

映像教材の文字おこし

ロジャーマイク（聴覚障がい者用デジタルワイヤレスマイク）の貸し出し、講義内容をノートに書きとめるノートテイクやパソコンに打ち込むパソコンテイクにより、学生がリアルタイムで授業内容を把握できる支援を行っています。



ロジャーマイク

支援を希望する学生には、これらの支援のほか、個別相談、担当教員との連絡調整、定期試験の解答方法の配慮等、要望を聞きながら、支援、改善していくように努めています。

必要があると考えます。

二つ目は「障がい学生の自立に向けての関わりをする」ためです。入学当初は受け身であった支援も、学年が上がるにつれて自らが必要とする支援が何かを考え、発信できるようになっていきます。最終的には、自分が持つ困難さを減らすための知識を得てそれを周囲に働きかけること、その意欲を持つことを目指しています。これらの力を身につけ、明治大学の卒業生として社会で活躍できるようにサポートをしたいと考えています。

ノートテイクをとおして(体験談)

大高有紀子

農学部食料環境政策学科2年

明治大学を志望

した理由は、障がい者のための支援があり、興味のある「食」に関する



学部学科があったからです。高校まではノートテイクなしで授業を受けていましたが、大学では授業数が多いため、ノートテイクの支援を希望しました。ノートテイクを受けることも初めてだったので最初は不安がありました。支援チームの方の説明がわかりやすかったこと、学部事務室の方や先生方と事前に相談をさせていただいたので安心して臨むことができました。実際に支援を受けてみると、ノートテイクは明大生なので気軽にお願ひすることができました。支援を受けて難しいと思ったことは、ノートテイクは2人1組で行われるため、どちらか一方が遅刻や欠席すると、もう片方に負担がかかってしまうというところ

です。また、テイクの方がノートテイクを頑張ってくれているのに、私の集中が途切れそうになった時があったので、テイクの学生さんに申し訳ないと思ったことがありました。

3年生になるとゼミがあるので、座学だけではなく実習を通して多くの学び、さらに「食」や「農」についての知識を増やせることが楽しみです。卒業後の進路はまだ具体的に考えていませんが、学科で学んだことを糧に、「食」に関わる仕事に就きたいと思っています。